ウイルスに勝つ

乳腺外科医
衆議院議員
厚生労働大臣政務官
大隈和英

今こそオリンピック・パラリンピックの力を

さて、新型コロナウイルスの流行により1年延期された、東京オリンピックが7月23日から8月8日まで、パラリンピックが8月24日から9月5日まで、いよいよ開催されます。日本での夏の大会開催は57年ぶりで、みなさんも当時の感動や思い出を懐かしむ方は多いでしょう。今回、東日本大震災からの復興を合言葉に、見事に招致レースを制したのが8年前のことですが、コロナウイルスの流行により、随分と状況が変わってしまいました。

最新の読売新聞の世論調査では、開催が50%、中止が48%と、賛成が上回ってきましたが、反対意見は根強いものがあります。私は当初から開催には大賛成ですから、国会の内外で一部の野党が、執拗に反対活動をするが残念でなりません。いやしくも日本の政治家ならば、どうすれば開催が無事に成功するか、最大限協力するのが本来の責務だと思います。反対派は一部のマスコミと大合唱で、主催者のキーマンを次々に攻撃して辞職させたり、挙句の果てに選手にまで心ない匿名の攻撃を浴びせるのには、反五輪活動派の本質を雄弁に物語っているようで悲しくなります。

一方で、街の方々に丁寧にご意見を伺いますと、開催に反対や危惧する方々は純粋に、開催により感染者や死者が増えないか？大会用の医療人員が、コロナの医療体制を圧迫しないか？海外から大勢の選手団の入国で新たな変異株が流行しないか？等々、やはり現下のコロナの感染状況に大きく影響されているのがわかります。

以前からプロ野球やJリーグでは感染対策の下、一定の観客数で安全に開催されており、甚大な被害を出した欧米ではワクチン効果もあり、様々な国際大会が実施され、確かに夢見た最高の大会の姿は望めなくとも、なぜ五輪だけ中止しなければならないのかという意見は的を得ています。加えて、入国者は最小限に抑え、五輪のための細かい規則によって、選手や関係者は外出禁止や頻回の検査など気の毒なほど厳しく制限され、競技自体は安全に開催されるのは間違いないでしょう。

むしろ、私たち個人が関係する、競技場の外の、たとえば街中のビアガーデンや大画面でのパブリックビューイングなどで、多くの人たちが熱狂して感染予防を忘れて大騒ぎにより、一気に再流行しないような注意は非常に重要です。しかし、それは特別なものではなく、これまで繰り返し提唱されてきた感染対策を実践するということに他なりません。

スポーツは、選手が自分の人生を賭けて鍛え上げた肉体と精神の限界に挑戦して、どんな台本も及ばない感動のドラマを生み出します。戦争や災害や貧困など、世界中の人が日常の苦難を、大会期間中は一瞬でも忘れて、喜びや勇気で満たされる。そんな大きな力が、オリンピック・パラリンピックにはあります。

また、水泳の池江璃花子さんのように、辛い病魔の絶望から復活して、同じ境遇の人たちを力強く励ます存在となられる選手は少なくありません。精神論ではなく、このウイルスに勝利するのに最も必要なものは人々の団結です。一人の力には限りがあるかも知れない、だけども私たちは励まし合って、社会全体で支え合って、最後にウイルスを封じ込めることがゴールです。

厳しい感染のまん延は、みなさんのご協力で克服されつつあります。今こそ、オリンピック・パラリンピックの力で世界中の絆を強め、温かい思いやりの輪を広げていく。人類はウイルスに決して負けない。人間賛歌とも言えるその思いで、是非とも成功させようではありませんか。私もみなさんと心を一つにして、テレビの前で静かに応援したいと思います。熱い夏のドラマを満喫しましょう。